

東日本大震災・原発事故から14年



バスツアー参加者で記念撮影（J ヴィレッジ サッカー練習場ピッチにて）

NPO法人
伊達西地区

自治協
だより

第51号

発行・編集
NPO法人
伊達西地区自治協議会
事務所:伊達市北後22-1
発行責任者
理事長 鈴木克良

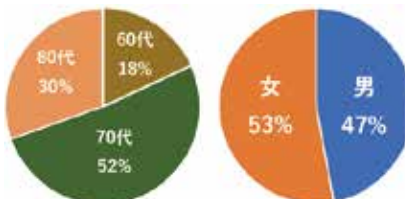
1面 被災地・復興支援バスツアー
2面 浅野燃系双葉事業所・Jヴィレッジ・東京電力廃炉資料館・
被災地バスツアーに参加して・編集後記

被災地・復興支援バスツアー

2011年3月11日、14時46分の震災発生から14年を経過しました。
被災地の復興状況を体感する2年振り（前回2023年3月開催）となるバスツアーを、2月13日に開催しました。
感染症対策にご協力いただきながら、総勢40名での催行となりました。

復興から発展を担う一員として、双葉町に操業した「浅野燃系双葉事業所」、福島第一原子力発電所の廃炉作業拠点から平成30年に再始動した楢葉町の「Jヴィレッジ」、原子力事故の反省・教訓を伝承するため設立された、富岡町の「東京電力廃炉資料館」の三カ所を視察しました。
次頁（裏面）にて詳細お知らせします。

参加者の年代・性別内訳



ツアーの期日・行程・臨時駐車場の満足度



Jヴィレッジの天然芝・人工芝ピッチ（上）と日本代表のサイン入りユニフォーム（左）



東京電力廃炉資料館では、福島第一原子力発電所事故の事実と廃炉事業の現状等をご案内いただいた



浅野燃系双葉事業所（上）と企業の歩みを体感できる展示エリア（下）

＼挽き立て！／
エスプレッソコーヒー
ご利用いただけます

一杯 ¥100

【利用時間】火～金曜 10時～16時まで

一杯ずつ豆を挽く香り高い本格珈琲
エスプレッソならではの立ち（クレマ）も
お楽しみください！
※エスプレッソの適温67℃でのご提供です

火～金曜 10時～16時
【利用時間】（事務室）まで！

ご利用の際は交流館窓口
お散歩中の休憩や会議
の際などにご利用くださ
い。

伊達中央交流館にエス
プレッソマシンが導入さ
れています。日により風
味が異なるコーヒーをお
飲みいただけます。
（二杯100円にて）

挽き立てコーヒー
をご用意してます

下記のQRコードから、
過去の「自治協だより」
をご覧くださいませ
（市民活動支援センターHP）



浅野燃糸 双葉事業所

令和5年に、岐阜県（本社）より双葉町に立地・稼働した事業所ですが、工場機能に加え、軽食スペース、見学スペース、タオルショップを備え、観光スポットとしても人気を集めています。



燃糸工場内を見学する参加者と事業所全景のジオラマ(右下)



▽参加者の皆さんの声▽

- ・復興支援に貢献している、すばらしい企業だと思った
- ・タオルが吸水性に優れているとことで使うのが楽しみ

Jヴィレッジ

敷地面積は49ha（東京ドーム約10個分）にも及び、天然芝ピッチ8面、人工芝ピッチ2面、全天候型練習場、雨天練習場、ホテル（総客室数200）等を備えた一大トレーニングセンターです。



芝の感触を確認する参加者(左上)と震災当時の状況説明風景



▽参加者の皆さんの声▽

- ・立派に営業を再開したこと、案内ビデオにゾーンときた
- ・ピッチの天然芝に触ることができて良かった

東京電力廃炉資料館

原発事故の記憶と記録を残し、二度とこのような事故をおこさないための反省と教訓や、廃炉現場の最新状況等を見える化し、その進捗をわかりやすく発信するために東京電力が運営しています。



廃炉資料館の景観(左上)と、係員の説明を傾聴する参加者



▽参加者の皆さんの声▽

- ・廃炉の復旧作業に大変努力していることが理解できた
- ・大型スクリーンに映像を映して説明され、分かりやすかった

被災地バスツアーに参加して

NPO法人理事 荏澤 光紀

山田陽茂副理事長とともに、本事業の臨時駐車場案内を担当し、ツアーにも同行させていただきました。

今回、視察した三つの施設ですが、一つは、福大出身の社長が操業した復興からの発展を担う民間企業の取り組み、二つには、廃炉作業の拠点から再始動したサッカースタジアムの聖地の現在、三つには、原子力災害の原因者による廃炉作業の全容などを、実際の目の当たりにして、それぞれの復興への想いを痛感しました。

とりわけ、一つ目の燃糸事業による世界への情報発信には、今後もエールを送っていききたいと思います。

車窓より、除染で取り除いた土を詰めたフレコンバック置場も散見され、まだ復興途上の現状ですが、被災地の皆さんの復興への意気込みが十二分に伝わりました。

編集後記

被災地・復興バスツアーは、二度目の参加である。

前回と似たような風景や、人の動きに唖然とした。随所に新しい息吹は見られるが、今後この地域はどうなるのだろうか、と勝手な心配をする。そして、野馬追に、多くの住民の姿が集結する光景を期待する。

(理事長 鈴木克良)